

令和元年 5 月

「非正規雇用で働くシングル女性の実態調査」 結果について

【お問合せ先】

大阪市立男女共同参画センター中央館
研究室(岸上)
TEL:06-6770-7200

ワンステージアップの支援で、 生活の維持向上「生活サステナビリティ」を

非正規シングル女性をめぐる課題は多様であり、当事者が抱える不安も大きい。

しかし、状況を一気に改善することは難しい。

現在の状況からステージを一段上げること、つまり「ワンステージアップ」をめざすことで、いくつかの不安や不満は少しでも取り除けるのではないだろうか。

非正規シングル女性への公共政策の支援には、焦らず少しずつでもエンパワメントすることから始めることが重要であると言えるだろう。

【調査概要】

- ・調査目的: 非正規雇用のシングル女性が増加している状況下で、仕事と生活に関する実態を把握し、男女共同参画施策推進の基礎データとするため。
- ・調査期間: 2018 年 9 月 21 日～9 月 28 日
- ・調査方法: インターネットによるアンケート調査
- ・調査対象: 20～50 代の大阪市在住の非正規労働者で子どものいない女性 400 人

【調査結果のポイント】

- ・回答者の 6 割が「パート・アルバイト」。
- ・未婚の 5 割以上が「個人年収 200 万円未満」であり、世帯収入でも 3 割近くが「200 万円未満」。
- ・未婚の半数に同居者(家族等)があり、現在の暮らしが「家族」で支え合うことで成立していることがうかがえる。

「非正規シングル女性のいま～平成 30 年度『非正規雇用で働くシングル女性の実態調査』調査結果概要

- 【調査目的】 非正規雇用で働く女性が抱える課題について、社会保障や行政施策の対象となりにくい未婚で子どものいない女性の状況を把握しその課題を明らかにすることで、これからの男女共同参画施策に資することを目的とする。
- 【調査手法】 インターネットによるウェブアンケート調査により実施。
- 【調査対象者】 20～50 代 大阪市内在住の非正規労働者で子どものいない女性。
- 【調査期間】 2018 年 9 月 21 日(金)～9 月 28 日(金)
- 【サンプル数】 400 サンプル 調査会社登録モニターより条件該当者を抽出

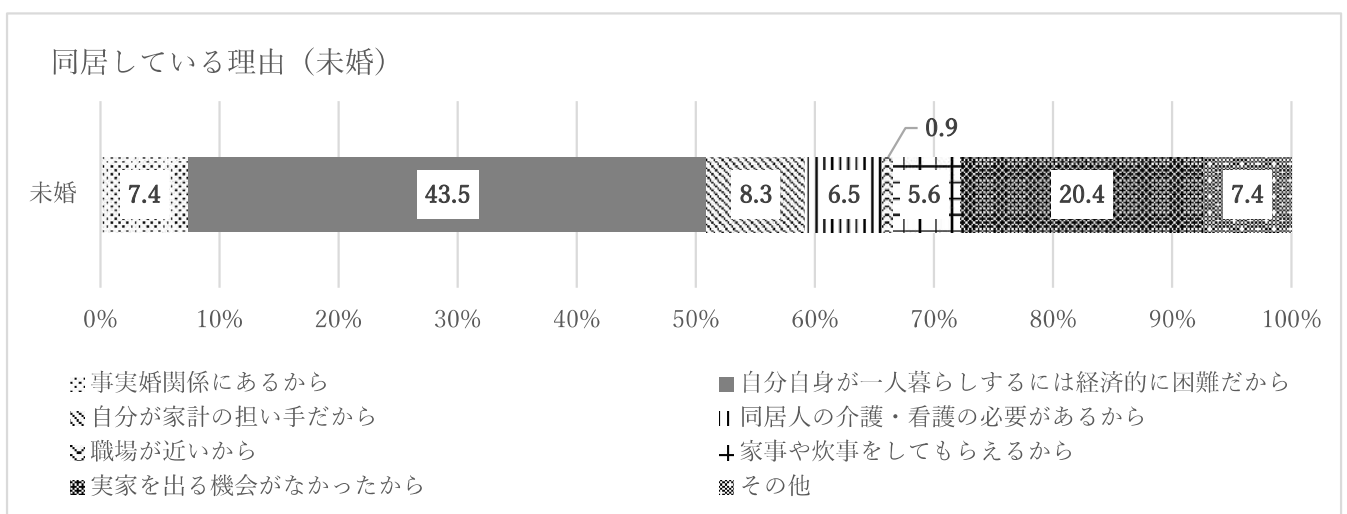
（１）調査の背景と目的

人口労働市場の状況を見ると、婚姻数の伸び悩み、未婚率の上昇の結果、シングル人口の増加等がある。また、1980 年代以降の雇用情勢と雇用政策の推移にともない、男女ともに正規雇用人数は増加しておらず、非正規雇用は増加している。このような社会状況の中で、非正規雇用のシングル女性が、「いかに働き生活するか等、自らの仕事と生活についてどのように考えているのか」について実態をより明らかにするために、非正規雇用ではたらく子どものいない女性（未婚者、既婚者それぞれ 200 サンプル）を対象に調査を実施し、これからの男女共同参画社会の実現に向けてとるべき施策を検討する。

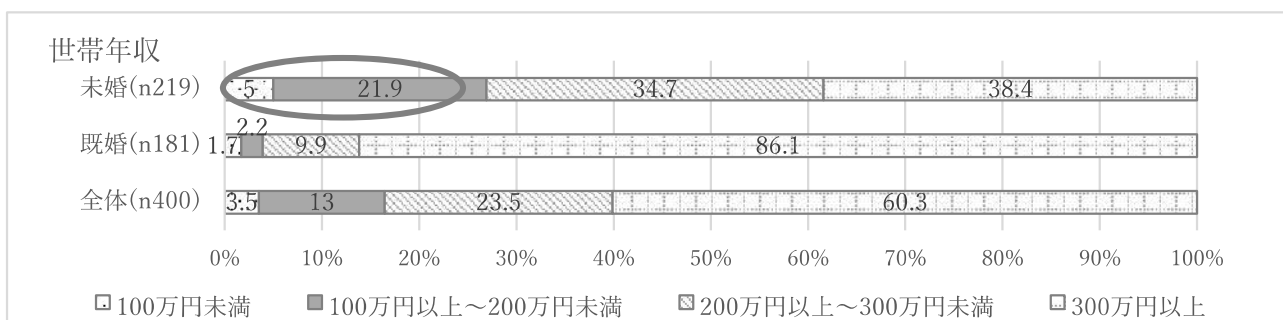
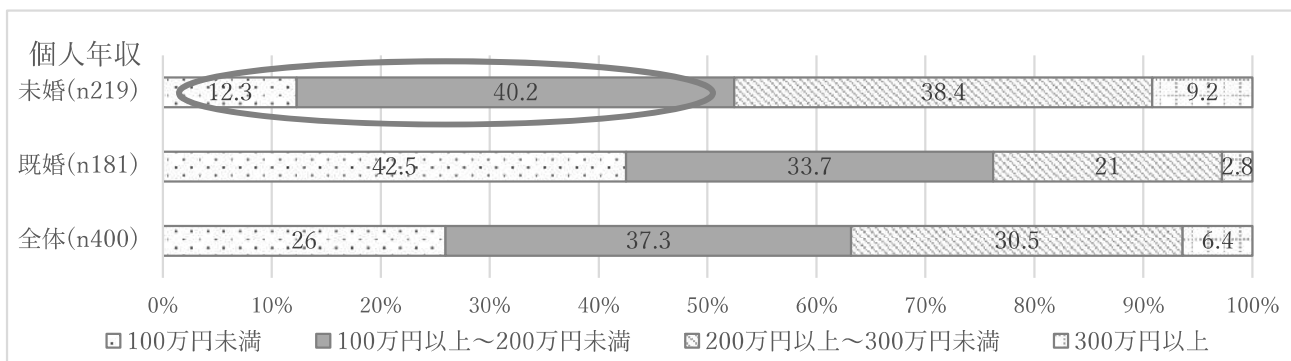
（２）調査結果 ～非正規シングル女性の仕事と生活の状況～

《低収入による経済的困難 「家族」と支え合い成り立つ生活の実態》

・未婚の4割が「自分自身が一人暮らしするには経済的に困難だから」と回答。

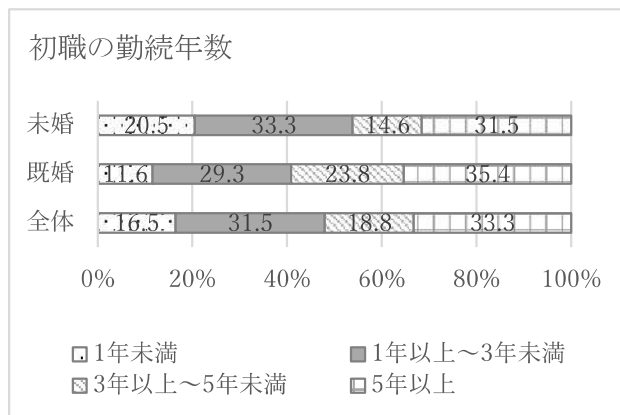
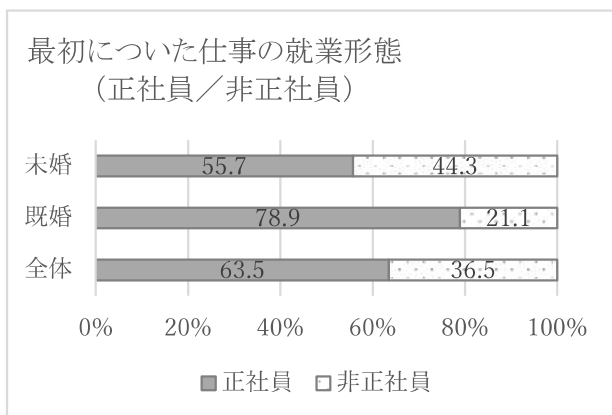
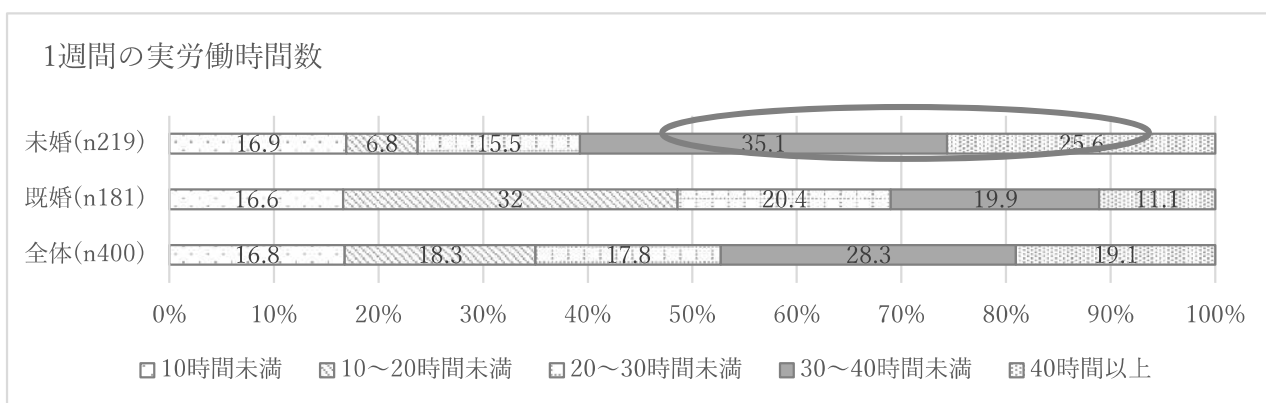


- ・未婚の5割以上が個人年収200万円未満。世帯収入でも26.9%が200万円未満。



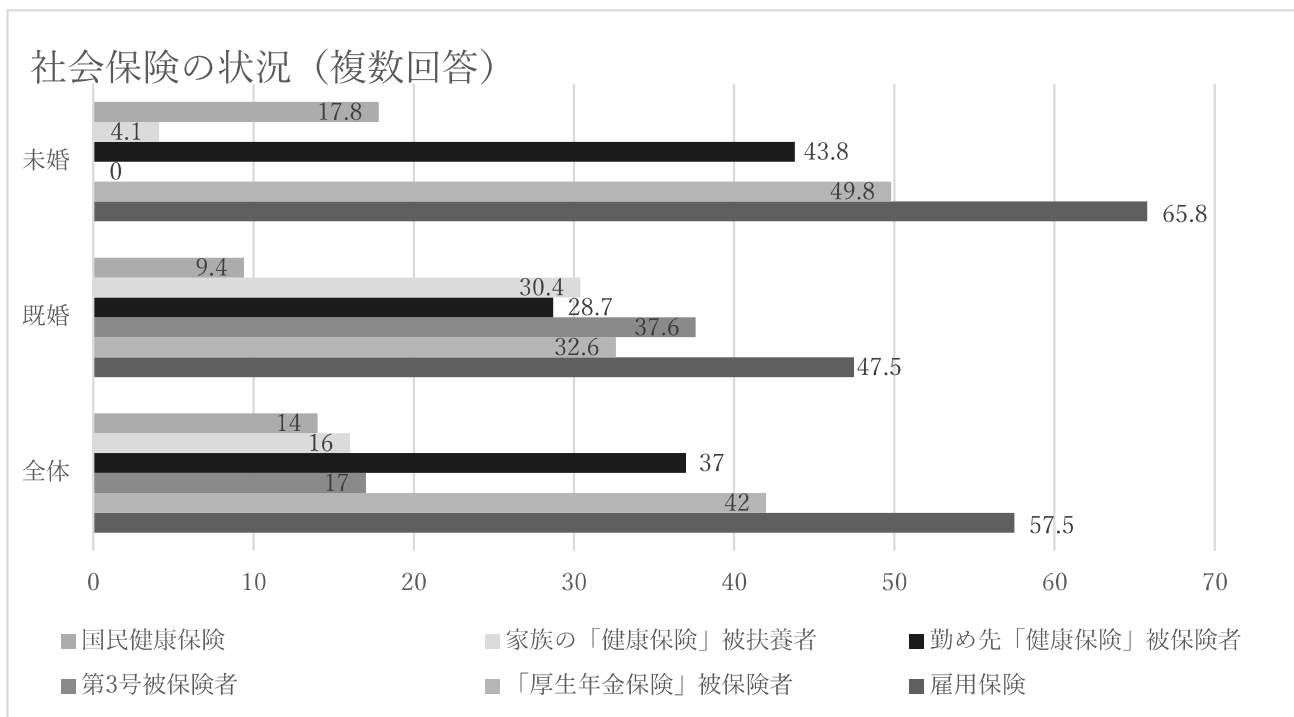
《非正規女性たちの就労実態とキャリア形成》

- ・回答者の6割が「パートタイム・アルバイト」として勤務。
- ・未婚の半数以上がフルタイム勤務。既婚では約半数が週20時間未満勤務で就業調整。
- ・未婚の約半数が初職から「非正社員」で、2割が1年未満で退職している。



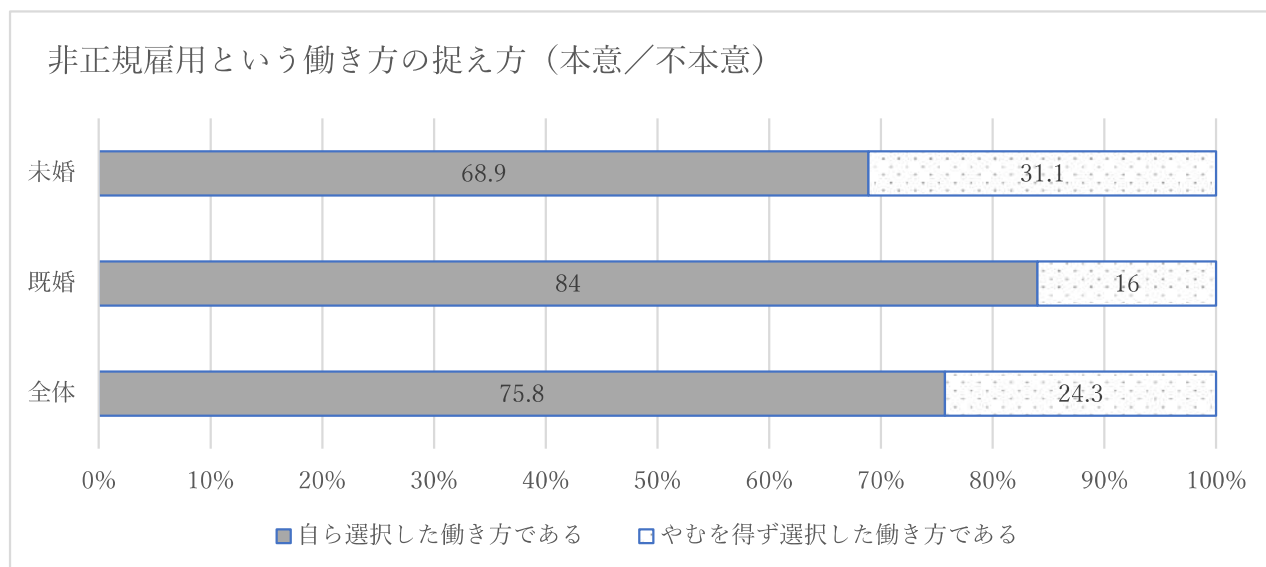
《社会保険の状況》

- ・未婚の49.8%が厚生年金に本人が被保険者として加入。既婚の37.6%が第3号被保険者。



- ・未婚女性の約7割は、非正規雇用という働き方を「自ら選んで選択した」と回答。

ただし、選択理由の自由記述をみると、景気や労働環境、健康上の理由など、外的な要因により非正規雇用を「選ばざるを得なかった」ケースも少なくない。



非正規シングル女性の声～自由記述回答より～

<非正規雇用選択の背景～本意か不本意～>

◆景気や労働環境など社会情勢

「前職がブラック正社員だったから」(Q8 本意/未婚 20 代 パートタイム労働者)

「選んだ会社が正社員の募集がなかったから」(Q8 不本意/未婚 20 代 パートタイム労働者)

「雇って貰いやすかったから」(Q8 本意/未婚 30 代 契約社員)

「リーマンショック後、派遣になった」(Q8 不本意/未婚 40 代 派遣労働者)

◆体力や病気など健康上の理由

「前職で体調を崩し、定時で上がれる仕事があったから」(Q8 本意/未婚 20 代 契約社員)

「体調を崩し非正規雇用として働き始めたが将来への不安要素の方が大」(Q8 本意/未婚 30 代 契約社員)

「通院しながら続けられるので」(Q8 本意/未婚 50 代 パートタイム労働者)

◆ケアワークのための時間的・身体的自由の確保

「親の介護があるため、半日出勤など時短を希望する日があるため」(Q8 不本意/未婚 30 代 パートタイム労働者)

「介護支援が必要な家族がいるから」(Q8 本意/未婚 40 代 パートタイム労働者)

<非正規のキャリア形成>

◆経験不足

「職歴も浅く、経験がないため一時しのぎで働いている」(Q8 不本意/未婚 20 代 派遣労働者)

「就職活動方法がわからなかったから」(Q8 不本意/未婚 20 代 派遣労働者)

◆正社員になることへの怖れ

「給料は少ないが、やむを得ないと思っている。自分の能力が良かったら正社員を考えても良いが、非正規の方が気を楽しんで日々を過ごせる」(Q8 本意/未婚 20 代 パートタイム労働者)

「正規雇用で働く自信がない」(Q8 本意/未婚 30 代 契約社員)

◆年齢の壁

「年齢を重ねるにつれて、仕事があるかどうか」(Q30/未婚 40 代 契約社員)

「いつまで派遣で仕事(オフィスワーク)出来るか。派遣で仕事が出来なくなったら、他に仕事があるか不安。年齢で断られることも多く、あっても低賃金で、一人暮らしだと生活していけないから」(Q30/未婚 50 代 派遣労働者)

＜低所得をめぐる 家族その他の支え＞

◆将来の備えができない不安

「安定した収入がなく、社会制度もきちんと支払えていない。貯金がない」(Q30/未婚 20 代 パートタイム労働者)

「収入が少なくほとんど貯金ができないため、老後の生活がとても不安」(Q30/未婚 50 代 パートタイム労働者)

◆「親なき後」の生活課題

「年金はあるのだろうか。職業は将来どれだけ残ってるのだろうか。田舎な地元は 20 年後はどうなっているのだろうか等 (不安は) たくさんあります。」(Q30/未婚 20 代 派遣労働者)

「孤独死は確定」(Q30/未婚 40 代 契約社員)

「このままではいずれホームレスになるであろうこと」(Q30/未婚 40 代 派遣労働者)

「両親が亡くなった後の生活」(Q30/未婚 50 代 パートタイム労働者)

◆諦念ともいえる感情

「特に考えないようにしている」(Q30/未婚 40 代 派遣労働者)

「あきらめているので特になし」(Q30/未婚 50 代 契約社員)

「言ってもしょうがない」(Q30/未婚 50 代 派遣労働者)

(3) まとめ～課題解決に向けて～

非正規シングル女性をめぐる課題は多様であり、当事者が抱える不安も大きい。しかし、現在の状況からステージを一段上げること、つまり「ワンステージアップ」をめざすことで、いくつかの不安や不満は少しでも取り除けるのではないだろうか。非正規シングル女性への公共政策の支援には、焦らず少しずつでもエンパワメントすることから始めることが大切であると言えるだろう。

特に、住まいや地域との「つながり」を意識した支援が重要であろう。現在は親世代からの支援によって、その生活が維持可能となっている部分も多いが、親世代からの支援が難しくなれば、生活費だけでなく「つながり」という視点からも地域や社会との関係が薄くなっていくことが予想される。子どもがいる場合は、子どもを通じて行政や地域との接点をはじめ、いろいろな情報を獲得し、つながりを保つことができるが、子どもがいないシングル女性が有する政策との接点は非常に少ないと言える。

自由記述回答をみると非正規シングル女性が抱える不安は多方面にわたることがわかる。それらの不安解消と課題解決に向けて、

- ①法制度等に関するリテラシー（理解力、読み解く力）の獲得
- ②リスク判断力と生活展望の視点
- ③多様な情報入手方法や政策接点の確保
- ④「家族」あるいはそれに代わる何らかの「つながり」

という 4 つの領域において、それぞれ現在の状況より「ワンステージアップ」する支援を実施することで、非正規シングル女性の労働と生活の展望を拓いていくことができるのではないかと。